土木工学・建築学委員会 IRDR 分科会 IRDR 活動推進小委員会（第 26 期・第１回）
議事要旨

１．日 時 令和６年５月９日（水）10：00～12：00

２．会 場 オンライン会議

３．議 題
（１） 委員紹介
（２） 活動推進小委員会 設置趣旨
（３） 委員長互選
（４） 第 25 期の活動について
（５） 第 26 期の活動について
（６）議事要旨の委員長一任について
（７）小委員会委員間のメールアドレス共有について
（８） その他

４．配布資料
資料 0_議事次第_IRDR 分科会_第 26 期第１回_資料入り
資料 1_小委員会_委員名簿
資料 2_小委員会_設置提案書
資料 3_第 25 期の活動について
資料 4_第 26 期の活動について
参考 1_IRDR PhaseⅡの活動について

参考 2_ICoE-Coherence の活動目標

５．出席者：委員 10 名（13 名中）の出席により定足数を満たしたことを確認した（以下、名簿順、敬称略）
（小委員会）栗林　大輔、小浪　尊宏、小森　大輔、田端　憲太郎、西川　智、西口　尚宏、
廣木　謙三、深澤　良信、松浦　象平、山崎　律子
（IRDR 分科会）田村　圭子、小野　裕一
（オブザーバー）JHoP 事務局　阿部　浩一、大森 光、岡部　隆、丹羽　暁子
（事務局）藤田　崇志

６．議事

（１） 委員紹介（資料１）

（２）活動推進小委員会 設置主旨（資料２）

・ 設置主旨を確認した。

（３） 委員長互選

・ 西川委員を委員長にとの推薦があり、合議を経て、西川委員を本小委員会の委員長とすることで承認した

（４） 第 25 期の活動について

・ 第１回 IRDR 分科会の報告を兼ねて、IRDR 分科会第 25 期の活動実績（資料３）を確認した

（５） 第 26 期の活動について

a. 第１回 IRDR 分科会の報告を兼ねて、IIRDR 分科会第 26 期の活動提案を確認した（資料４）

b. 委員からの意見

・ 第 25 期では戦略的提言を出して、国際的にも発信してきたが、その面を強化したい。10 月のアジア太平洋防災閣僚会議で、ICoE-Coherence がサイドイベント企画や提言発信をするのもよい。PhaseⅡに入った IRDR とも連携を強化し、JHoP による技術的支援や WS などを通じて、日本の活動を国際的に PR するチャンスと思われる。

・ 2030 年をにらんでポスト SDGｓ、ポスト仙台防災枠組に何を織込むかを視野に入れ、国際的な動きが活発化している。

・ 第 25 期の提言は大きな成果であり、国交省としてもそれを確実に拡げていきたい。内閣府とともに、水分野、水防災分野で数多くの国際会議に参画の機会があり、その場で提言が日本の世論を動かしつつあり、世界とも繋がっていくことを国際的にアピールすれば、ポスト SDGｓ、ポスト仙台防災枠組にも提言の内容が反映されることになると思われる。

・ 第 26 期では SNS での発信強化とプレゼンスの向上を図るのが良い。海外向けには LinkedIn が有効である。防災に関する LinkedIn のページを制作し、提言等が常に目に触れているようにすることを検討してはいかがか。

・　紛争や人的災害を含め国際秩序が急速に変わっていくことをこれまで以上に意識することにより発信するメッセージの訴求性や説得性が変わってくる。国連関係の交流では、内向き志向の結果、分野によっては日本のプレゼンス低下が懸念される状況となっている。

・　当小委員会の廣木謙三委員がオランダ王国よりオラニエ＝ナッサウ勲章司令官章を受勲された。これも重要な国際発信の一つと考える。
廣木委員から、今後も国際的にも貢献するよう努力したいと発言があった。

・　10 月のアジア太平洋防災閣僚会議への対応については内閣府、国交省も検討されていると思うが IRDR 分科会も含めて検討をお願いしたい。

・　2025 年３月の世界防災フォーラムについて、小委員会としても対応を検討したい。

・　第 26 期活動目標２の標準化について、防災 ISO の動きを受けて、水防災の分野でも標準化の動きがある。防災と水防災は国際的にも関係者が若干異なっており、水防災分野での ISO を内閣府知財事務局で標準化に関する予算を獲得して、昨年から検討を進めている。昨年３月の国連水会議 2023 では上川現外務大臣が水防災・環境・気候変動に関するテーマ別討議に関する共同議長を務めたが、このプレゼンスを維持している間に経産省とも協力し、国連水会議のレガシーを残すというコンテクストで ISO 内に IWA（国際ワークショップ協定）を構築して協議を進め、今年秋の ISO Technical Management Board(TMB)に提出したい。

・　仙台防災枠組をはじめ防災分野への認識が国際的にも高まり、新たな研究者の参加も増えている。実際の防災経験のある研究者が多い日本が、国際的にプレゼンスを確保できるよう努力したい。

（６）議事要旨の委員長一任について
・　本分科会の議事要旨については、委員長に一任することで承認された。

（７）小委員会委員間のメールアドレス共有について
・　本分科会のメールのやりとりにあたっては BCC での送信ではなく、誰に送信されたのかが分かるように、宛先もしくは CC でメールのアドレスが分かるように送信することで了承された。

（８）　その他
・　次回小委員会は５月２７日に IRDR 分科会と合同で開催予定で了承された。